

大森神社のオハツキイチョウ

内 海 功 一

1954年11月4日、兵庫県佐用郡南光町中三河の、大森神社境内にあるイチヨウの落果したものの中に、オハツキイチョウがあるのを発見した。

地質時代のイチヨウは、すべてこのように葉に銀杏がついて、その後、長い年月の間に生殖器に分化が起り、普通品に見られるように特定の軸に銀杏が、できるようになったと考えられ、これが今日でも環境条件、即ち、くわしくは、その木の蒸散水量より吸水量の多い環境型のイチヨウの生育型に、太古の状態のような葉（大胞子葉）があらわれるものであるといわれている。

オハツキイチョウは、全国的にも珍らしく、中には天然記念物にされているものもある。これがたまたま当地で見つかったことは全く奇遇といえる。

当神社のイチヨウは、目通り2m、高さ20m位で、他

の木と混生していて、幹は拝殿の屋根に接してそびえており、枝は広がらず細高い樹型をし、樹勢は旺盛の感がある。

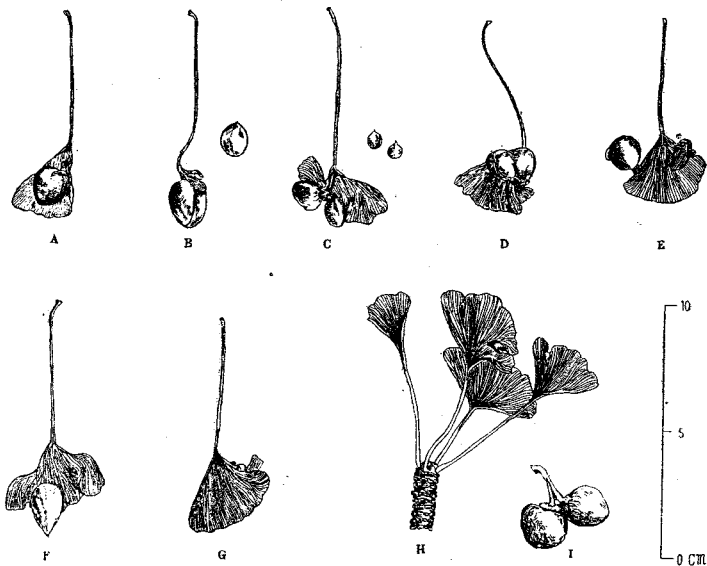
宮司の言によれば、銀杏の量は毎年18lを越すようなことはなく、木の大きさに比しては、かなり少ないようである。

オハツキイチョウの量も別記のように又少ないが、今迄目につかなかつたのも、これ以上少なかつたためかとにかく、これについての話は今日迄何もなく、何時頃から現われたのか全くわからない。

発見後の調査の結果は表及び図のようである。これは庭で見つかったものだけで、他に拝殿の屋根に残つたものもあり、及それまでに捨て去られたもの等もあることと思う。

図は大森神社のオハツキイチョウの葉（大胞子葉）の中、特長のあるものをえらんだ。A～Fは、それぞれ小型銀杏が一葉中1個又は2個成熟したものであり、B、Cには、その種子をそれぞれ付した。Dは2個のものが合さつたものようである。Gは成熟しなかつたもの、Hはその着生状態でIがついていた。Iは托頂が二分したもので、普通品ではない。

環境条件をあげてみると、次のようである。



この木の根元付近は何時も水が鉄さびをまじえ、地表に滲出している。又その近所からは、神社の手洗水（PH6、2）も、ひかれている。聞けば、この手洗水の量は多くないが、今迄の旱天にも絶えてしまうような事はなかつた、といわれ、水の維持状態は特によいものといえる。

前記のことから、この水分が当神社のオハツキイチョウをつくることに密接な関係を持つていることと思われる。

土質はいわゆる赤土で、粘気強く昔から往事使用したもみすり機の土には、この付近の土が最適との評判であつたと伝えられている。

境内の大きな樹木をあげればケヤキ、アラカシ、スギ、モミ、フシ、カラスザンショウ、リンボク、タラヨウ、サカキ等があり、他の30種程の植物と共に、この森をつくつている。又近くには当イチヨウの結実に関するもの、イチヨウはない。

以上、簡単な調査であるが、今後このイチヨウの状態がどのようにかわるか、その生育の前途に興味をもつものである。

県下のオハツキイチョウは、さきに加古川市の妙願寺で31年秋、金沢氏による発見が、くわしく前号にも報告されており、県下では、これで2本目のものとなつた。

終りに、この報文をつくるに当り御教示下さつた室井

表1 採集状態

採集月日	葉の種類		不稔葉数	備考
	成熟 2個成熟	数葉 1個成熟		
11 — 4	0	20	0	○11月19日は黄葉の程度80% ○12月8日殆んど落葉を終る。
11 — 5	0	12	4	
11 — 8	3	30	1	
11 — 12	0	12	4	
11 — 14	0	2	15	
11 — 19	0	1	46	
11 — 30	0	0	5	
計	3	77	75	

表2 成熟品の内訳

成熟数 原基数	$\frac{2}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{1}$
葉数	3	2	8	31	36

表3 不稔葉の内訳

原基数	4	3	2	1
葉数	1	1	28	32

先生、並びに大住宮司に敬意を表します。

文 献

- 向坂 道治 イチヨウの研究
 宮田 渡 採、飼 VOL. 18, No. 1 VOL. 19, No. 12
 金沢 竜 兵庫生物 VOL. 3, No. 4, No. 5
 木田 正次 植物文化財

藤原先生の学位受領を祝して

近 藤 昭 一 郎

先生が学位を受けられましたことを心からお慶び申し上げます。

先生のキク科植物についての御研究は、研究業績を見られるとわかりますように、大学の在学当時から続けておられ、特に最近の御研究は「キトロギア」、「ジャーナル・オブ・ボタニー」等により、海外にまで紹介され、注目されております。

先生に御指導をいただきました者の一人として、今までに先生から直接おうかがい致しましたことがらを中心に、想い出すままに述べさせていただいて皆様に御披露申し上げ度いと思ひます。

先生は加東郡東条町の御出身で、中学校は確か、神戸三中（現在の長田高校）を出られ、御影師範学校に入学されましたが、上級生の暴力行為を嫌われ、翌年広島高等師範学校に入れ、3年から文理科大学に進まれました。同大学御卒業と同時に、文部省からの電報一本で鹿児島県のさる山奥の中学校に赴任されました。その時、乗って行かれた汽車は、客車でも貨車同様に夜になっても電灯もつかなくなつたそうです。そして一年後には、なつかしの？兵庫師範学校助教授として迎えられ間もなく教授に進まれましたが、その中に戦争が激しくなり、学徒勤労動員の付添教官として遠くは島根県や滋賀県まで出動されたことがあります。その当時先生のおすまい

は御影町の第一小学校の近くにありましたが、空襲の際にはそのお宅にも何発かの焼夷弾が命中したそうですが、敢然と消火に当たられ、立派に家を守り通されましたが、終戦後、家主の要求を入れられ、御影の山の手（甲南病院の下あたり）に自家製の家を建てられ移り住まれました。それは御自身で大工や左官をやられて、建てられたそうです。そしてヤギやニワトリを飼つておられ、私達は何回か御馳走にあずかつたように覚えております。

先生は一見、温和な中に謹厳そのものといった感じがしますが、一面非常にユーモラスな面も持ち合わせておられ、教室や野外での御指導の際には、すました顔でユーモアをとばされることがあります。先生の御趣味はスキー、スケート、登山、庭球、卓球、ダンス、ピアノ、写真等、非常に多芸に通じておられ、希望者には心よく手ほどきをされておるようであります。

長々と無秩序に述べまして、先生に対して大変礼を失した点や、思い違い等もあるかと思ひますが悪しからずお許し下さい。

先生には今後とも充分御自愛下さいまして、私達のために、一層の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。